

広 報

ふじかわ

町のメモ

| | |
|--------------|----------------------|
| 昭和58年10月1日現在 | |
| 人口 | 17,002人 |
| 増減 | -6人 |
| 男 | 8,377人 |
| 女 | 8,625人 |
| 世帯数 | 4,352世帯 |
| 面積 | 31.09km ² |

富士川町 総務課

10月号 昭和58年10月20日発行

No.267



町の今年の目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

さあ ぶっつけ本番
うまくいくな!

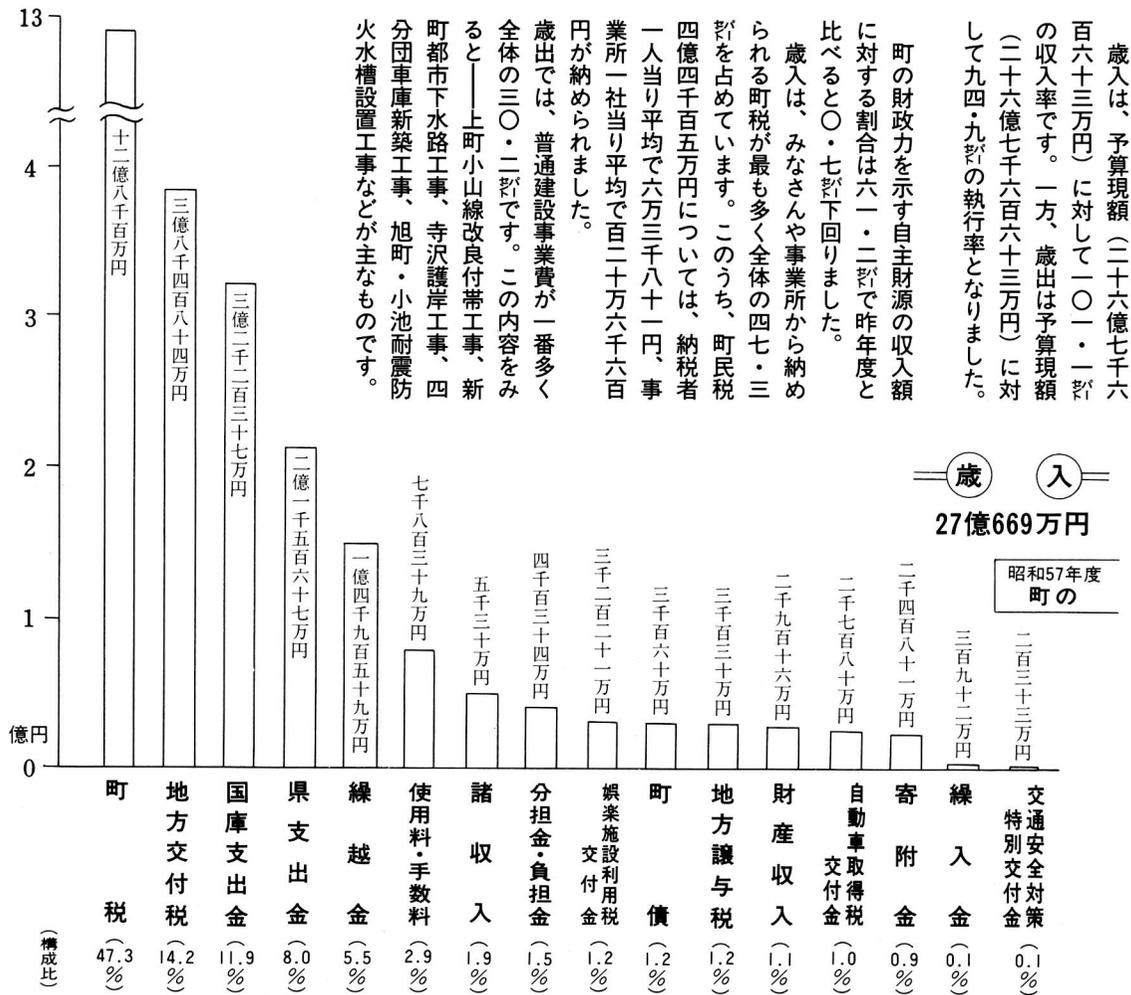
お父さん

順送球で大熱戦

「第1幼稚園運動会から」

絶好のスポーツ日和に恵まれた10月2日(日)、さくら台、第1・2幼稚園の運動会が元気いっぱいにおこなわれました。

第1幼稚園では、年少父子による「ぶどう狩り」、祖父母との「アブラハムの父子」、お父さんによる「順送球」、お母さんによる「背中でツンツン」など15種目が、むつまじい雰囲気の中でおこなわれ、170人の園児は、約700人の父母、祖父母などの見守りの中で、練習の成果をグラウンドいっぱいに繰り広げ、たいへん楽しい一日を過ごしました。



| 区分 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
|------------|-----------|-------|--------|
| 人件費 | 6億4,190万円 | 25.3% | 102.7% |
| 物件費 | 2億8,828万円 | 11.3% | 110.1% |
| 維持補修費 | 523万円 | 0.2% | 72.8% |
| 扶助費 | 8,013万円 | 3.2% | 101.1% |
| 補助費等 | 4億2,728万円 | 16.8% | 106.7% |
| 普通建設事業費 | 7億6,794万円 | 30.2% | 108.5% |
| 災害復旧事業 | 1,330万円 | 0.5% | 257.1% |
| 積立金 | 1億3,763万円 | 5.4% | 63.1% |
| 投資・出資及び貸付金 | 649万円 | 0.3% | 33.1% |
| 繰出金 | 1,688万円 | 0.7% | 211.1% |
| 公債費 | 1億5,440万円 | 6.1% | 102.0% |



改築された第四分団車庫 (南松野)

建設省甲府工事事務所では、子どもたちへの河川愛護をはかることを目的に、県内外11校の小・中学生を対象として「河川愛護作文」の募集を行ないました。同作文募集には459編の応募があり、当町の第二小学校では128編応募しました。

審査の結果、第二小学校では、鈴木利美くんの作文が優秀賞に選ばれ、8月30日同所長から表彰状及び記念品が贈られました。

鈴木利美くん
2小・5年 (八幡町)

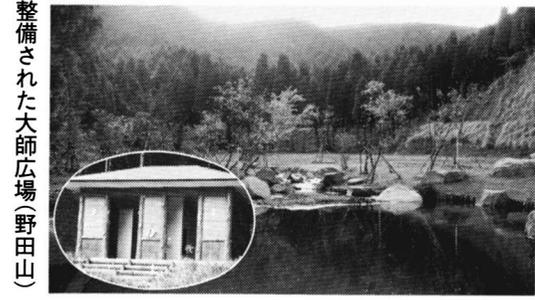
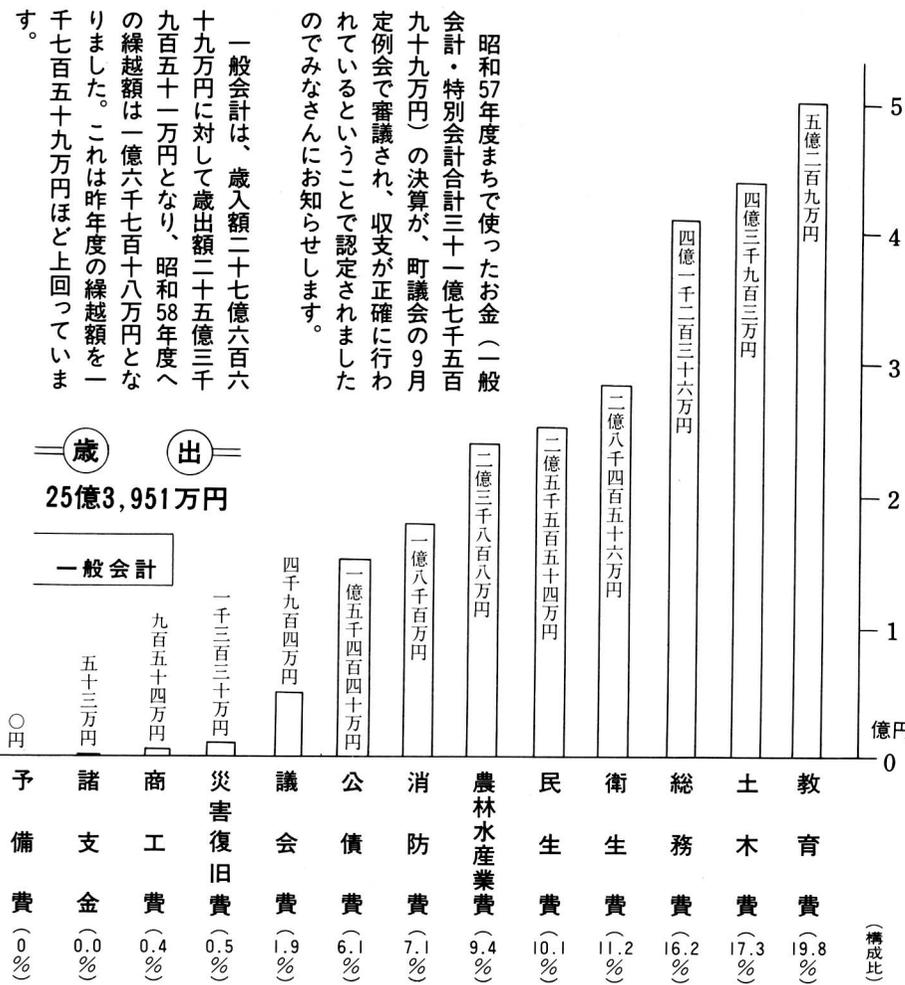
河川愛護作文の優秀賞に

◎街頭監視活動の強化がおこなわれています。

◎二輪車の指導取締りの強化
○速度違反、信号無視、一時停止等の危険行為の取締り
○ヘルメットの着用指導取締り

緊急交通事故防止対策として、現在、二輪車を中心とした、

昭和57年度まちの家計簿
まちで使ったお金
三十一億七千五百九十九万円



| 特別会計名 | 歳入 | 歳出 |
|--------|-----------|---------|
| 国民健康保険 | 4億4,743万円 | 4億961万円 |
| 土地取得 | 1億2,297万円 | 5,018万円 |
| 老人保険 | 2,189万円 | 1,858万円 |
| 水道事業 | 1億4,118万円 | 1億910万円 |
| 収益的収支 | 1,665万円 | 4,901万円 |
| 資本的収支 | | |

整備された大師広場(野田山)

子どもと老人事故が多発

9月中、町内では、人身事故3件(4)、物損事故1件(2)発生し、同事故により園児1人、小学生1人、老人2人が怪我をされました。(一)内は昨年)

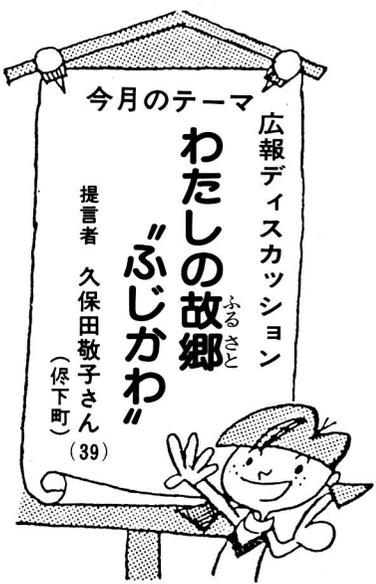
発生した4件の事故を路線別に見ると、県道富士川身延線で人身事故1件、町道では人身事故2件、物損事故1件が発生しています。

一人ひとりが事故をおこさないよう、また被害者にならないよう十分な注意が必要です。

9月21日から30日までの10日間「秋の交通安全運動」がおこなわれましたが、同期間中町内では、交通事故は1件も発生していません。



習慣にしよう
シートベルトとヘルメット



広報ディスカッション
 今月のテーマ
わたしの故郷
 ふるさと
「ふじかわ」

提言者 久保田敬子さん (39)
 (保下町)

ふれあいのある町
 坂下 石居孔子さん(61)

昭和33年11月、出雲の神に授けられ富士川町に入籍して、25年の年月が流れました。都会の雑踏の中で育った私は、まるで絵葉書を見るごとく、美しい富士を眺め、緑豊かな山々を望み感動したものです。

生まれ育った

松野が好きです
 南町二 田辺水子さん(40)

私がこの富士川町に生まれ育って今年で40年になるとうろとある。この間、色々のことがありました。私の小学校時代(現在の二小)の校舎は木造で中庭があり、そこには桜の木が何本か植えてありました。低学年の時30cm、もう少し少なかったかも知れないが大雪が降り、雪合戦をやった楽しい思い出もある。でこぼこ道は舗装され、井戸から汲み上げた水は、今では水道がひかれ便利になった。

望郷の思い

新町 小笠原和代さん(38)

富士山が見え、海に近く、氣候が温暖、当然のことと思っていたことが、実に恵まれた幸せな環境であったと思知らされたのは、故郷「ふじかわ」を離れた昭和29年私が9歳の時でした。子どもでしたから、半年間に雪に閉ざされ辛抱の日々を過

広々とした自然の中で

成長したような気がします
 大北町 杉山好明さん(43)

一年に一度、村に住んでいる小学校時代の同級生と、一泊で集まる会をもっている。お互いに子どもの頃のこと話しがは



提言者 西村亜紀子さん
 一四年 通本

わたしは、テレビが大好きです。どうしてかというとおもしろいマンガがいろいろあるからです。

見ていると、すぐに終わってしまうような気がします。だから来週がたのしみです。一週間がすぎると気がま

11月のテーマ
テレビとわたし

に、チャンネルをかえられてしまうからです。そんなときは、すぐがっかりします。テレビのいいところは、ときどき、勉強にやくだつことをやるからです。わるいところ

るもあります。それは、目がわるくなることです。おかあさんに、「目がわるくなるからさがりなさい」とどなられます。

テレビがこわれると見られなくなるから、チャンネルのとりっこをして、けんかをしたりしないようにします。それから、テレビにも一週間に一日休みがあるといいと思います。



●11月のテーマ
 テレビとわたし

●字数

400字づめ原稿用紙一枚以内

●締切り日

11月9日(水)まで

●投稿先・問合せ先

富士川町役場・総務課

岩淵12番地

●注意事項

匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切り日までに投稿してください。なお投稿原稿はお返ししません。

ずんで行く。バスもトラックもあまり通らず、木炭車とガソリン車の変わり目の頃で、学校の帰り道、坂道を行く車の後にぶらさがっては怒られた話。夏休みになれば休み中は富士川で泳ぐことが義務付けられていたような気がする。三年生になるまでエッチュウフンドシで、六尺フンドシは水かさの増した川を渡り切った者から締るのが習しであった。冬になればメジロにホージロ取り、栗の木の枝に取りモチを巻き付け、おとりのメジロと一緒にジイーと待った日々、そんなことが40歳を過ぎた私たちを左右している。

思い出、話してあるから、美しく思われるというではなくて、今の子どもたちと比べて、何か雄大で広々とした自然の中で成長したような気がする。30年も過ぎた今、春が来ても夏が来ても、子どもたちは、富士川町の自然からだんだんと、遠のいていくのが、何んとなく淋しいような気持ちにさらされています。

裏の小さな川

舟山町 池谷和子さん(48)

舟山町の住人になって、23年になる。私たちがきた頃、裏の

小さな川は、上の方に大きな竹やぶがあつて、そこから湧水が流れてきて、とてもきれいだつた。洗濯は、ほとんどこの川です。

夜になるとカントラを持った人が、かぎ針の先のみみずをつけて、ずがにをとり歩いた。

朝起きると、バケツを持って水汲み、鍋、釜、茶わんまでも洗いにいく人で、川端は、にぎやかだったそうです。

朝起きると、バケツを持って水汲み、鍋、釜、茶わんまでも洗いにいく人で、川端は、にぎやかだったそうです。

サービスエリアが出来た時、竹やぶがなくなり、川底はコンクリートで固められ、湧水は涸れ、汚水が入って、遊ぶことの出来ない、死んだ川になってしまいました。

今になって私は、大切な宝物をなくしたような気がします。

いつまでも守り

育てていきたい故郷
 木島 角替千鶴子さん(55)

生れ育った富士市より富士川町の住人となってからの方がずっと長い36年の年月が経ちました。嫁にきた当時は、戦後の無い無いづくしの生活でした。

私は、井戸から水を担いで家まで運ぶのが毎日の仕事だつた。毎日忙しい生活の中で、ふと過ぎし日のことを懐しく思い出す。

そして、過去をたどつてみれば色々な人たちが逢い別れ……中学生の時の友との別れは、本

当に残念だった。近い所なら再会できるのだが、千葉という遠い所へ行ってしまつては逢うこともできない。今頃、どうして

いるやら。子どもさんは何人いるのだろうかと思いは果てしない。そして、今ではみんなの交流の場として老人憩の家、松野児童館を建てていただいた。楽しい三世交代交流、活動……自然に恵まれたすばらしい生まれ故郷、松野が、富士川町が私は好きなのです。

富士山が見え、海に近く、氣候が温暖、当然のことと思っていたことが、実に恵まれた幸せな環境であったと思知らされたのは、故郷「ふじかわ」を離れた昭和29年私が9歳の時でした。子どもでしたから、半年間に雪に閉ざされ辛抱の日々を過

ごす生活にもすぐ慣れはしました……。

福島での11年間、心の奥で私の故郷は富士川町なのだ、早く帰りたい、望郷の思いは、まさに故郷は遠きにおいて思うもの的心境でした。昭和40年ようやく帰郷できました。

家並も学び舎も、すっかり変わっていました。故郷の空気に心とみましました。あれからもう18年も歳月が流れ、当時の感激は日々薄れつつありますが、秋の彼岸に新豊院へ墓参りの帰途忠霊塔が目止まり、裏山に登ってみました。以前は旧校舎と旧役場庁舎の間にあり、掃除当番で周囲の落ち葉を払ったことを思い出して、懐しく胸が熱くなりました。大人に成長した時子どもたちは、何処に故郷「ふじかわ」を見つけているでしょうか。責任を持って良い環境を残してやりたいと願う気持ちでいっぱい

恵まれていると思えました。子どもたちは学校で、冬でも半袖半ズボンでトレーニングをしています。山陰ではとても考えられないことです。私もこちらにきて、最初の年は、薄着でがんばってみました。暖房もあまり必要でなく、とても暮しやすいつころだと感謝しております。ところが、二年三年たつと、だんだん寒がりになり、重ね着をしたり、ストープのそばから離れなくなつてしまいました。

この恵まれた環境に慣れてしまったせいでしょうか。きびしさを忘れて、つい楽な方を選んでしまう自分を反省し、このすばらしい氣候を大いに生かして、体力づくりにはげんでいこうと、決意を新たにしました。

それから、富士川町の自然もすばらしいと誇りに思っています。初めて、川坂山へ登つた時、白い、いいにおいの花に出会いました。あたり一面のみかんの花を見た時は感動的でした。川坂山からのけしき、おいしい空気を胸いっぱい吸う時、とても幸せな気分になります。私の第二の故郷、富士川町のよいところをもっと見つけていきたいと思つています。

「弁当忘れても傘忘れるな」私の生まれた山陰では、一年のうち、どんよりと曇つた日が多く、雨や雪の日が多いところだす。そんなところで育つたのですから、八年前、富士川町にきてまず氣候がとてつと見つけていき

たいと思つております。

第二の故郷
 よいところをもっと見つけていきたい
 東町二 相見千恵子さん(62)

ママさん記者が取材中



「俣下クラブ」

誰でも入会できるそうです。発当初の活動は、スポーツを主にしていたが、有無瀬川の下刈り清掃などの奉仕、家族同伴のつり堀大会、バーベキューなどのレクリエーション的な活動も幅広くおこなってききました。俣下区が昭和50年度から3年間、静岡県の「親と子で築く明るい家庭運動」推進地区に指定された時は、推進地区の推進役として大きな担い手となり、活動が目玉されました。

昭和56年8月には、俣下クラブ結成10周年を記念し「俣下まつり」を盛大におこないました。また東海大地震を想定した防災訓練では、同クラブ員が先頭に立ちテント張りなどに大活躍しています。

このように区との太いパイプ役として、地域コミュニティづくりに貢献しています。男性のみの会員でありながら、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるようにという思いやりと全身でぶつかりやりとげるといふエネルギーでたくましく大地の中



「俣下クラブ」10周年記念での会員のみなさん (S56・8)

自然を思わせる同クラブで、恵まれた人材、環境、意欲と三拍子揃った地域の深い理解などによる充実した活動はすばらしいと思われました。また会館内に掲示してあります「伝統ある俣下町、友愛と団結の灯を、何時までも燃やし続けよう」という横幕には地区の力強い団結力を感ずりました。

今年度の目標は、「参加、連帯、創造」だそうです。会員のみなさんの強い団結力で、いのししのごとく勢いよく突進してください。

広報モニター 川崎和喜子

社会教育の自立 「和顔愛語」

町のことしの目標は先年度に引き続き「笑顔であいさつ明るい町」であり、町民のみなさんが周知の通りである。ところで標題の「和顔愛語」とは、この目標具現に通ずるところの笑顔とやさしい言葉のことである。この稿であえてこの名句を引用したのは、作り笑いや歯の浮くようなお世辞を奨励するためでは毛頭なく、人間平等の精神を再認識してほしい意図によってである。どんな人に対しても根本にこの精神があつてこそ、自然に「和顔」となり「愛語」となってくるのであつて、必要以上に肩に力を入れていばつたり、虚勢をはり、とげとげしい言葉を使うのは、そもそも相手を粗略に扱っている証拠でもある。

人とのつき合いで、初対面の時の好印象をそのまま長く継続できる人と、逆につき合いつつその魅力を深めるにつれて、さほどの魅力を感じなくなる人

と、さらには初めの印象として何程の事も記憶にとまらなかつた人が後に味わい深い人間であつたりする場合とがあるが、いずれの場合をとつても、その人物が持つ人間性の相互関係が深くかわりを持つてくるものだ。だからして人との接し方には、確固とした芯となる意志を持つべきであろう。

私たちは、生身の人間として感情の起伏を一定に保ち難い凡人の集団である。こうした異なる能力、性質を持った集合体が複雑な社会を構成している以上、単に形式としてのつながりである。「同」ではなく、精神的なつながりの「和」を求めていかねばならない。そのために「和顔愛語」の励行を生活の基本に据えたいものである。

長い人生、目先の多少に気持ちを左右させていては、せつかくの人生もつまらないものになりかわりかねない。あせらず、くさらず今日という日を笑顔で過ごしたいものである。

ふるさと探訪

石仏巡礼(二)

川坂 社宮神の石幢

社宮神、俗におしやもつさんと呼んで昔から咳の神さん、子供の夜泣きを治してくれる神さんとして庶民に親まれてきた。

富士川駅から役場へ向かう途中右手に電報電話局があり、局の手前を左手に折れる角に観音堂への道標が建てられている。ここから150m程西へ歩くと鉤の手に小さな祠がある。これが川坂の社宮神で祠の脇に石燈籠に似た石幢がある。高さ1.8m、基礎、幢身、中台、龕部、笠、宝珠からなり、石燈籠と異なる点は、笠にわらび手が無く、龕部に火口が、竿に節がそれぞれ無いことが違っている。火袋

部分が六角形に造られ、六地藏が配されている民間信仰的のものであり、六地藏については前月号でのべたとおりである。石幢とは石の幢であり鎌倉時代以降、供養塔として造立されている。



この社宮神は天文年間、武田信玄との戦に敗れた作州松本、深志城主、小笠原長時一族がこの地に移住された時、屋敷神として祀ったものと言われている。六地藏を配した石幢もこの小笠原一族が郷里信州の石工に刻造させたもの

と思われる。記録は無いが信州方面には同型のものが多い。安政の地震で倒れ六地藏部分が壊れたため、同所在住の小笠原孝平氏によって補作されたという。町内唯一の石幢である。(芦川守正)

星の子

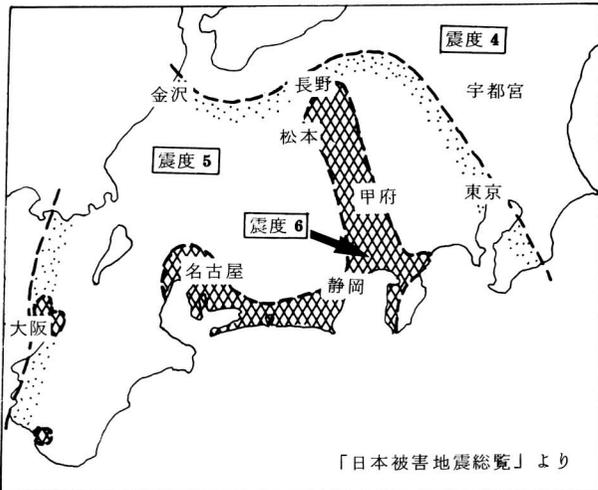


資料・東海地震 ⑮ 安政東海地震の震度分布

東大地震研 恒石幸正

つぎの東海地震が起こるとすると、どの程度の被害が予想されるでしょうか。これは防災対策上きわめて重要な課題です。もしも、ひとつ前の地震時の様子がわかるなら、有力な手掛かりとなります。東大地震研の宇佐美龍夫氏は、古文書等に残された記録をたんねんに調べて、いまから129年前の安政東海地震の際の震度分布を図のようにまとめました。

震度5の範囲は東京から大阪におよびます。震度6の範囲は沿津から名古屋まで東海道沿いに分布するほかに、駿河



戸籍の窓

S 58・9・1〜9・30現在

(敬称略)

おめでた

| | | | |
|-----|----------|-----|---------------------|
| 区名 | 氏名 | 保護者 | 続柄 |
| 相生町 | 若月 力 勝 | 二男 | 東町二 植松久子 勤 二女 |
| 小池 | 宮原直人 邦夫 | 長男 | 〃 〃 鮎川理沙 照夫 長女 |
| 幸町 | 小澤紗弥香 孝徳 | 長女 | 〃 〃 望月麻未 達由 長女 |
| 東町一 | 花田知穂 久由 | 長女 | 〃 〃 南町一 上野鮎美 剛 長女 |
| | | | 〃 〃 富士見町 井出光俊 半次 二男 |
| | | | 〃 〃 富士松野 佐野麻衣 敏明 長女 |
| | | | 〃 〃 〃 佐野敏章 了 長男 |
| | | | 〃 〃 〃 山下友加 清二 長女 |
| | | | 〃 〃 大北町 若月麻衣 敏 二女 |

| | | |
|-----|--------|----|
| 区名 | 氏名 | 年齢 |
| 上町 | 鈴木康治 | 四二 |
| 〃 | 鈴木みつゑ | 八三 |
| 坂下 | 高坂せき | 九三 |
| 旭町 | 渡邊乙次郎 | 七二 |
| 〃 | 田中喜博 | 七二 |
| 東町一 | 久保田數雄 | 六三 |
| 南町二 | 押田のぶ | 七三 |
| 清水町 | 深澤卯之太郎 | 八〇 |
| 俣下町 | 小川すみ代 | 三八 |

かなしみ

町への寄付金(敬称略)

五十万円堀江文庫へ(児童館)
 富士宮市 堀江喜一
 S 58・9・27

社会福祉事業寄付金

三十七万三千元

町議会議員互助会

おわび

本紙8月号広報デイスカツ
 ション欄で、花田眞澄さん文章
 中父77歳を74歳と、寝るを帰る
 に、また9月号同欄の幸塚とし
 子さんの「女と子どもだけ乗せ
 る」を「女と子どもだけ乗せる
 な」と、誤記し掲載しましたの
 で、深くおわびし訂正させてい
 ただきます。

お母さんの

知恵袋

(前月号からつづく)

四、油と酸化(酸敗)
 〃 大敵は空気中の酸素と光と
 熱、酸敗した油での食品を食
 べると下痢、嘔吐、腹痛、倦怠
 感等中毒症状をおこします。少
 し口に含んで変敗臭やえぐ味が
 あつたら食べてはなりません。
 〇揚げ物は10℃の温度が上がる
 と酸化は2倍になります。天ぷ
 ら時の温度は高すぎないように
 十分気を付けましょう。
 〇揚げる量にもよるが、あまり
 大きく面積の広いフライパンよ
 りも空気にふれる率の少い小さ
 めのものが良い訳です。
 五、天ぷら油の保存
 開封後の保存期間のめやすは、
 一〜二カ月位です。密閉できる
 容器(なるべく缶、黒っぽいビ
 ン)に入れ、冷暗所に保存しま
 しょう、未開封の場合の保存期
 間は缶、黒っぽいビンは二年、
 透明ビン一年半、プラスチック
 一年、直射日光にさらされない
 管理の良い店で製造年月日の新
 しいものを買えば良いでしょう。
 貧血防止に鍋は鉄製のものを使
 用しましょう。天ぷら鍋はもち
 ろん鉄鍋に限ります。

富士川短歌会

九月詠草(天野寛選)

幾日も通いてなりし山畑に青く
 出揃う蕎麦二十二畝
 相生町 長谷川ゆり子
 鶏頭の赤きわまれる背戸庭に吹
 き入る風は季移るらし
 本通一 長橋 安子
 あさがほのはびこる蔓の下かげ
 に昼と夜と鳴くこぼろぎの声
 坂下 植松 秀子
 地を埋むいてふ落葉を踏みにつ
 つ鎌倉行けば頭ちくる晶子
 四十九 辻 すみじ
 四姉妹ふる里に来て弟と共に老
 いたり酒かはしつづ
 本通四 高橋 勝治
 熱帯夜暑さはげしくねつかれぬ
 うとうととしてあかつきになる
 舟山町 望月 八代
 下北の果に眞直な砂道に柏の新
 葉そよぎてつづく
 本通三 桐谷 静子
 早川と湯川を結ぶ激つ瀬は岩に
 砕けて山に砕す
 本通一 望月 録
 真夏日も竹藪より落つる地下水
 の桶に溢れるる山岸の家
 四十九 入月 弘子
 居眠れる券うる老はわが問いに
 顔をあげつつ句碑を読みあぐ

一里塚



ある日曜日、妹の子どもを
 預った。まだ、安定感がなく、
 ハラハラとさせながらも、あち
 らこちら歩き回るので目が離せ
 ない。おもしろ役に、すっかりく
 たびれてしまった時、裏の家の
 子どもたちがいたので、いつ
 しょに遊んでもらうこととした。
 姪は、女の人になつきやすい
 ので、今度、幼稚園に上がる女
 の子の方になつくかと思つた
 が、やはり、異性の方が良いよ
 うで、小学生の男の子の方が

(浦田)